

大分大学医学部看護学科

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 に対応した看護学科教育活動指針 (第6版)

<方針>

看護学科では、大学・医学部の方針に基づき、講義・演習、臨地実習等の教育活動における感染防止に努めるとともに、学生に不利益の無い学習環境の保証を図る。

I. 基本的感染予防行動と環境整備

1. 適切な健康管理行動を身につける

1)健康状態の観察と「健康管理記録」を用いた記録

- ・毎日、「健康管理記録」に健康状態や行動を記録し、月はじめに提出する。
- ・同居者等長時間生活や行動を共にしている周囲の人の健康状態についても留意する。
- ・健康管理記録(エクセルファイル)は、医学部ホームページのトップページ「大分大学医学部における新型コロナウイルス感染症への対応について」の「看護学科」に掲載している。各自でダウンロードし使用する。

2)3密(密閉、密集、密接)の場所を回避

- ・学内、通学時、プライベートにおいて、3密になる空間を常に意識し、避ける。

3)不要不急の外出自粛

- ・大分大学および医学部の感染症対策(学生通知)の最新版にそって行動する。
- ・不要不急の判断や授業参加等について、分からない場合、心配な場合は、まずは学務課に相談する。

☆ 自分の生活行動・環境の感染リスクをアセスメント☆

- ・アルバイト先(ファミレス、コンビニ、家庭教師、塾講師等)の感染リスクと予防対策の実施状況
- ・買い物、通学、理美容室、ドライブ、屋内外の運動等、日常生活の状況

## 2. 基本的な感染防止対策（感染経路の遮断）を実行する

### 1) 適切な手指衛生

- ・各自、ハンカチをもつ
- ・正しい手洗い方法・手洗いのタイミング（共有物に触れた時、食事前、トイレ後等）  
... 3～6 階実習室・調理室を手洗い場所として開放する
- ・速乾性アルコール製剤による擦拭... 学務課で準備

### 2) 咳エチケット・飛沫の飛散防止

- ・咳やくしゃみの時、マスクやハンカチを使用する。
- ・大学構内、授業中、公共交通機関での通学中は、マスク（自作可）を着用する。
- ・マスク表面は不潔区域であることを意識して扱い、衛生的に管理する。
- ・公共交通機関やスクールバスを利用する際、マスクを着用し、私語は控える。

### 3) 環境対策〔自然換気〕

- ・自然換気は、1 回以上/90 分（5 分以上）を行う。  
... 休憩時間は、すべてのドアと窓を開け、自然換気を行う。
- ・講義・演習中、ドアや窓を部分開放する。衣類で防寒対応をする。

### 4) 環境対策〔清掃・消毒〕

- ・一日 3 回をめやすに、講義室等の机、ドアノブ、スイッチの擦拭消毒... 学生（当番制）
- ・教卓やマイクの擦拭消毒... 教員
- ・自己学習室、LL 教室の PC のキーボードの擦拭消毒... 道具・方法を検討中（学務課）
- ・消毒道具は、次亜塩素酸ナトリウム溶液を準備（当面、看護学科）

### 5) 感染防止のための身体的距離 Physical distancing

- ・お互い 1～2 メートルの間隔をとる。
- ・医学部の講義室では、席の間隔を確保し出欠状況を把握するため、座席位置を固定する。
- ・エレベーター内では会話をしない。

### 6) 汚物の適切な廃棄

- ・喀痰を喀出したティッシュは、確実に廃棄する。

☆ 昼食や休憩中の過ごし方は3つの密になっていないか？☆

- ・間隔をあけて着席し、会話を控える。
- ・学食が混雑し過ぎないように、昼食持参、食事後はすぐ退席する等、協力する。

## Ⅱ. 講義・演習、臨地実習の基本方針

- ・講義・演習・技術演習、臨地実習では、3密の機会を回避し、学習目標を達成する代替の学習内容、方法を検討する。
- ・臨地実習は、感染予防対策を講じ、新型コロナウイルス感染に関連する状況を見ながら[別表 大分大学医学部看護学科新型コロナウイルス感染発生状況に応じた臨地指針]に基づき、臨地実習の実施・方法を判断し実施する。
- ・本活動指針に記す事項について、学生・教員・実習指導者が共通理解し、看護対象者の健康・安全を最優先とする実習を行う。

### 1. 講義・演習・グループワーク・技術演習での留意点

- ・咳エチケット
- ・身体的距離を確保した着席
- ・講義時間の柔軟対応
- ・グループワークや BAZZ セッションを実施時のマスク着用
- ・演習前後での手洗い実施の徹底
- ・机、ドアノブ、マイク等の擦拭消毒の徹底

### 2. 臨地実習

1) 臨地実習 2 週間前より、自分の行動(アルバイト、県内外移動、流行地からの移動者との接触、同居者等<sup>1)</sup>)および健康状態に気をつけ、健康管理記録用紙に丁寧に記載する。感染に関する心配があれば、指導教員に相談する。

2) 臨地実習は、以下の感染予防策を徹底した上で行う。

(1) 毎日、朝・夕 2 回、健康観察を行い、健康管理記録用紙に記録する。また、実習時間以外の行動も丁寧に記録する。

(2) 学生は、体温 37 度以上や呼吸器症状(咳、鼻汁、咽頭痛等)、味覚・嗅覚異常、下痢等感の感染を疑う症状がある場合、実習地に移動せず自宅から、

① まず、教員に電話連絡をし、別添の健康報告書を参考にしながら、症状等別添の内容について報告し実習の可否を相談する。

② 次いで、学務課に連絡し指示に従う。

---

<sup>1</sup> 大学(医学部)の最新の通知をよく読むこと。

- (3)臨地において実習開始時、教員または実習指導者は、学生から健康状態の報告を受け、実習の可否を判断する。
- (4)実習中、マスクを着用する。自分でマスクを準備できない場合は学務課で配布する。
- (5)カンファレンスは、3密を回避した環境のもと、マスクを着用し行う。
- (6)実習施設・部署に出入りする際やケア前後において、必ず手洗いをを行う。また、個人の聴診器や実習で用いた器具は、使用の前後にアルコールシートで擦拭消毒を行う。
- (7)実習の記録は、自宅で行う。自己学習室やLL教室は、できる限り使用しない。
- (8)教員は、実習施設側と受け入れ可否を協議する。
- ・実習の可否の判断においては、近隣地域の COVID-19 の発生状況や学生の健康状態等を考慮するが、施設の意向が最優先される。
  - ・実習の受け入れが可能であっても、状況により実習方法を変更する場合がある。
  - ・実習の受け入れが難しい場合、学内実習あるいは補習実習に変更する。
- (9)実習施設のクライアントおよび職員が COVID-19 に罹患した(院内・施設内感染)場合、当該施設での臨地実習を中止する。

### 3)臨地実習中の感染予防対策

#### (1)手洗いの励行

- ・実習施設にいる時だけでなく、学内に帰ってきた時や白衣に触れた時(着脱等)、食事の前等に衛生的手洗いを実施する。
- ・手洗い場所として、3～6階実習室・調理室を開放する。

#### (2)白衣・靴下・ナースシューズの管理(主として附属病院での実習の場合)

- ・白衣は感染源と成り得るため、毎日交換する。
- ・脱いだ白衣はビニール袋に入れて自宅に持ち帰り、洗濯する。汚物が付着した場合、指導教員に相談し、実習室で消毒・洗濯を行う。
- ・実習終了後は速やかに着替え、不用意に白衣姿で構内を歩かない。
- ・ナースシューズは、毎日消毒する。

#### (3)実習中の昼食・休憩の取り方(白衣を着ている場合)

- ・3密を回避するために、昼食・休憩場所として 222 号講義室、6 階実習室・調理室を利用する。た

だし、講義・演習を優先する。

#### (4)使用した部屋の環境整備

- ・昼食・休憩、カンファレンスで使用した部屋の換気、机、ドアノブ、マイク等の擦拭消毒を行う。

#### (5)実習期間中の行動

- ・感染のリスクを下げるために、土日祝日を含め、実習期間中の不要不急の外出を避ける。
- ・実習2週間前から実習期間中は、不特定多数が利用する飲食店等のアルバイトは控えること。
- ・アルバイトや帰省等については、感染リスクを十分に考慮した感染防止対策を実施すること。  
相談があれば、教員に相談する。

### Ⅲ. COVID-19 に関連する誹謗中傷防止

COVID-19 の感染・発症(疑いを含む)した人に対して、尊厳を守り、誹謗中傷をしない。

また、感染・発症に関する不安や心配、悩みがある場合は、抱え込まず、保健管理センターや教員に相談する。

### Ⅳ. 学生・院生への周知

- ・医学部ホームページのトップページに、「大分大学医学部における新型コロナウイルス感染症への対応について」特設サイトは随時更新する。各自で定期的に確認すること。
- ・更新時および緊急時には、学務課よりディープメールで一斉連絡する。

臨地実習学生健康状況報告		(連絡日時 月 日 時 分)
	学生氏名	
	実習部署	
	担当教員	
	報告時 学生所在	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 学内(                      )
体温	報告時の体温	時 分 _____ °C
	体温経過	平 熱 _____ °C
		症状ある場合:前後の体温経過 (いつから:                      ) (経過:                      )
症状	呼吸器症状	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつから:                      ) (薬剤使用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 )
	消化器症状	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつから:                      ) (薬剤使用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 )
	嗅覚・味覚	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつから:                      ) (薬剤使用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 )
	倦怠感	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつから:                      ) (薬剤使用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 )
	その他症状	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつから:                      ) (薬剤使用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 )
	既往歴の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつから:                      ) (受信状況:                      ) (薬剤使用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 )
行動歴・関係者の健康状態	アルバイト	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつ:                      )
	サークル活動	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (いつ:                      )
	周囲関係者内の体調不良の有無 (同居者、友人関係・実習メンバー等)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (誰がいつ:                      ) (症状:                      )

別表 大分大学医学部看護学科新型コロナウイルス感染発生状況に応じた臨地実習指針(ver.4)

・臨床実習指針は、県内の新型コロナウイルス感染発生状況を踏まえ、医学部新型コロナウイルス感染症対策ワーキングチームにおいて判断する。

・実習可否の段階は、原則毎月第1・第3木曜日の医学部新型コロナウイルス感染症対策ワーキングチーム会議において検討する。

・実習可否については、段階の目安と施設内感染のリスク状況・医療提供体制・地域の感染状況で総合判断する。

・実習中に**医学部の学生から感染者が発生した場合は、全ての施設での実習を一時中断する。**

・原因不明の発熱、呼吸器症状などのある患者(環境)と学生の接触は避けるように留意する。

・△：施設(実習部署)ごとの状況判断

実習可否の段階	めやす	臨地実習の基本指針	県内臨地実習施設(附属病院・医療施設・介護保険施設・デイケア施設・助産院・保健所・市町村・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所)													学内実習						オンライン実習	県外臨地実習	
			日常生活や観察技法の実施	問診・面談	看護スタッフのケアに同行・見学	スタッフミーティング・カンファレンスへの参加	検査室での見学	RH室での見学	電子カルテの閲覧	OPE	ICU	NICU	ER	外来スタッフに同行	施設・病棟内での学生カンファレンス	技術演習(モデル・シミュレーターでの個人学習)	技術演習(対人・グループでのロールプレイ)	事例展開(グループ)	事例展開(個人)	臨床講義	学内カンファレンス			
ステップ0	本院において院内感染が確認される。	臨地(現場)での実習は不可/学内での実習も学内や市中の感染状況を踏まえて慎重に判断する。	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▲	▲	▲	▲	▲	▲	△	×
ステップ1	大分県内において週あたり250人を超える感染者数。	臨地での患者/クライアントへの実践や実習現場への立ち入りは制限付きで慎重に実施・学内実習可	△ エアロゾル発生リスクがある場合は×	△ 15分以内/回	△	△	△ エアロゾル発生リスクがある場合は×	△ 3密に注意して	○	×	×	×	×	△ 看護師に動向	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△ 大学の方針+施設の受け入れ
ステップ2	大分県内において週あたり50人を超える感染者数。	臨地での患者/クライアントへの実践は一部制限付きで可	△ エアロゾル発生リスクがある場合は×	○ 15分以内/回	○	○	△ エアロゾル発生リスクがある場合は×	△ 3密に注意して	○	△	△	×	×	△ 看護師に動向	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△ 大学の方針+施設の受け入れ
ステップ3	大分県内において新型コロナウイルスによる市中感染がみられず、週あたり50人以下の感染者数。	通常通り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○